2021年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52541	施設実習Ⅰ Nursery Practical Training Ⅰ (Welfare Facilities)	谷村　和秀		専門	2	選択	1年・2年後期前期

科目の概要

基本的に保育所実習や幼稚園実習（園児も学生も互いに自宅から通う場所での実習である）と違って、利用者の生活場所で実習するところにある。学生の新しい場所になれること、新しい人になれていくこと、新しい場所で生活することに慣れることなどなど体験して、福祉施設および利用者の理解を深めることになる。

学修内容	到達目標
① 福祉施設の利用者のかかわりを通して、利用理由を学ぶ ② 福祉施設の保育士の職能を学ぶ ③ 児童及び障がい児福祉施設の現状を学ぶ ④ 福祉施設と地域との関係を学ぶ	① 福祉施設の利用者が説明できる ② 福祉施設の保育士の職能が説明できる ③ 児童及び障がい児福祉施設の現状が説明できる ④ 福祉施設と地域との関係が説明できる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	施設実習指導Ⅰや1年及び2年前期での学びをすべて活かし課題意識を持って取り組む。
	働きかけ力	
	実行力	自分で目標を決め、確実に行動する。
考え抜く力	課題発見力	保育の現場をありのまま把握して、自己課題を見つける。
	計画力	
	創造力	保育者の行動を積極的観察し保育技術、知識の習得し実践に活用する。
チームで働く力	発信力	修得して技術を積極的に子どもに伝える
	傾聴力	保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り先入観を持たずに聞く。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	決められたルールや約束を認識しそれに従って行動する。 欠席した際は、追加実習を実施する
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「学外実習の手引き」　愛知学泉短期大学幼児教育学科
「MINERVAはじめて学ぶ保育11　施設実習」　ミネルヴァ書房　2,200円＋税
参考文献：なし

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：子ども家庭福祉、社会福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、保育の心理学、障がい児保育
施設実習指導Ⅰ、保育所実習、幼稚園実習
資格との関連：保育士

学修上の助言	受講生とのルール
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返りながら、実習に臨む。	・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守する。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受験できないことになるので注意する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			・園から提出される出席簿、実習記録、評価票を参考に評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性） 課題を取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献や実習担当者のアドバイスを踏まえて、自己学修をすることができたか。 （実行力） 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 （課題発見力） 思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 （想像力） 物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができたか。 （発信力） 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 （傾聴力） 実習担当者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 （規則性） 無断欠席・遅刻・早退をせず、やむ得ない場合は実習先と大学に連絡する。 実習ノートを期限内に提出すること
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①福祉施設の利用者がくわしく説明できる ②福祉施設の保育士の職能が実践できる ③児童及び障がい児福祉施設の現状が詳しく説明できる ④福祉施設と地域との関係が詳しく説明できる ⑤園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。（評価内容Ａ） ⑥総合評価90点以上はS（秀）、89～80点をA（優）とする	①福祉施設の利用者が説明できる ②福祉施設の保育士の職能が説明できる ③児童及び障がい児福祉施設の現状が説明できる ④福祉施設と地域との関係が説明できる ⑤園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。（評価内容Ｂ） ⑥総合評価79～70点（良）、69点～60点（可）とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1～5	見学・観察実習 ・積極的に子どもの中に入り、子どもの様子や施設の1日の流れを学ぶ （担当：谷村）	学外	1日の流れが理解できる	（予習） ①見学・観察するポイントを確認して置く ②対象の利用者について調べておく （復習） ③実習記録の作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6～10	参加実習 ・講義や演習で学んだことを活かして実践する （担当：谷村）	学外	保育士が行っている支援が理解できる。	（復習） ①　実習記録の作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11～14	指導実習 ・実習指導案を作成する ・実習指導者の助言を受ける ・研究保育を行い、評価する （担当：谷村）	学外	実際に指導案を立てることできる	（復習） ①実習記録の作成 （予習） ②指導案を作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	反省・総括 （担当：谷村）	学外	自身の保育者としての課題が理解できる。	（復習） ①　実習記録の作成 ②　総括の作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力

2021年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
52542	施設実習Ⅱ Nursery Practical Training Ⅱ (Welfare Facilities)	谷村　和秀		専門	2	選択	2年後期

科目の概要

基本的に保育所実習や幼稚園実習（園児も学生も互いに自宅から通う場所での実習である）と違って、利用者の生活場所で実習するところにある。学生の新しい場所になれること、新しい人になれていくこと、新しい場所で生活することに慣れることなどなど体験して、福祉施設および利用者の理解を深めることになる。

学修内容	到達目標
① 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について学ぶ。 ② 保護者支援、家庭支援のための知識、技術を学ぶ ③ 保育士の業務内容や職業倫理を学ぶ ④ 保育士としての自己の課題を把握する。	① 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、説明できる。 ② 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 ③ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践できる ④ 保育士としての自己の課題を明確化する。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	施設実習指導Ⅱや2年間での学びをすべて活かし課題意識を持って取り組む。
	働きかけ力	
	実行力	自分で目標を決め、確実に行動する。
考え抜く力	課題発見力	保育の現場をありのまま把握して、自己課題を見つける。
	計画力	
	創造力	保育者の行動を積極的観察し保育技術、知識の習得し実践に活用する。
チームで働く力	発信力	修得して技術を積極的に子どもに伝える
	傾聴力	保育者や子ども、保護者が話しやすい雰囲気を作り先入観を持たずに聞く。
	柔軟性	
	情況把握力	
	規律性	「遅刻・無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動はせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる」
	ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力	

テキスト及び参考文献

テキスト：「学外実習の手引き」　愛知学泉短期大学幼児教育学科
「保育士をめざすための児童福祉施設実習」　みらい
参考文献：なし

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：子ども家庭福祉、社会福祉、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、子どもの心理学、障がい児保育
施設実習Ⅰ、施設実習指導Ⅱ、保育所実習、幼稚園実習
資格との関連：保育士

学修上の助言	受講生とのルール
・今までに学んだことや実習で体験したことを振り返りながら、実習に臨む。	・実習を行うにあたって、実習先の希望等、多くの書類の提出を求めるがその際の提出期限は厳守する。 ・実習に先立って行う事前指導をきちんと受けない学生は、この科目が受験できないことになるので注意する。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①				
				②				
				③				
				④				
	平常評価	小テスト	0	①				
				②				
				③				
				④				
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	90	①	✓			・園から提出される出席簿、実習記録、評価票を参考に評価する。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
学修行動		社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性） 課題を取り組むにあたって、必要な知識を教科書・文献や実習担当者のアドバイスを踏まえて、自己学修をすることができたか。 （実行力） 一度始めたことは最後までやり切ることができたか。 （課題発見力） 思い込みや憶測でなく事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができたか。 （想像力） 物事を考える時に、固定概念に捉われることなくいろいろな方向から考えることができたか。 （発信力） 予習や講義での身につけた知識を整理し、的確な文章で表現できる。 （傾聴力） 実習担当者の意見を確認し、さらに自分の意見を述べることができる。 （規則性） 無断欠席・遅刻・早退をせず、やむ得ない場合は実習先と大学に連絡する。 実習ノートを期限内に提出すること
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
①児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ④保育士としての自己の課題を明確化する。 ⑤園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。（評価内容Ａ） ⑥総合評価90点以上はS（秀）、89～80点をA（優）とする	①児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 ②家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ④保育士としての自己の課題を明確化する。⑤園から提出される出席簿・実習記録・評価票を参考に評価する。（評価内容Ｂ） ⑥総合評価79～70点（良）、69点～60点（可）とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1～5	見学・観察実習 ・積極的に子どもの中に入り、子どもの様子や施設の1日の流れを学ぶ （担当：谷村）	学外	実習期間に入って最初のうちは、観察の上、子どもの様子や１日の流れを捉えることが中心となる。 積極的に子どもの中に入り、保育者の考えを尋ね、早めの状況把握ができる。	（予習） ①見学・観察するポイントを確認して置く ②対象の利用者について調べておく （復習） ③実習記録の作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6～10	参加実習 ・講義や演習で学んだことを活かして実践する （担当：谷村）	学外	施設が理解できたら、それまでに学習し、経験してきた保育知識を自分にできることから実践ができるようになる。	（復習） ①　実習記録の作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11～14	指導実習 ・実習指導案を作成する ・実習指導者の助言を受ける ・研究保育を行い、評価する （担当：谷村）	学外	実際に指導案（時案ないし日案）を立てて、保育者の指導をあおぎ、その案を検討する。その指導案のイメージを自分の中に持って、実際の保育に活かせるようになる	（復習） ①実習記録の作成 （予習） ②指導案を作成	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	反省・総括 （担当：谷村）	学外	実際に保育をしてみた結果について評価を受け、反省をまとめることになるが、このとき大事なことは、指導が上手くいったかどうかということ以上に、その体験から何を学んだかである。	（復習） ①　実習記録の作成 ②　総括の作成		主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ｽﾄﾚｽｺﾝﾄﾛｰﾙ力